

【短報】屋久島および奄美大島におけるケモンヒメミゾコメツキダマシの記録

ケモンヒメミゾコメツキダマシ *Dromaeolus cariniceps* Fleutiaux, 1923 はこれまでに、九州、伊豆諸島（三宅島・八丈島）、トカラ列島（中之島）、沖縄本島から記録があるが（久松, 1985; 鈴木, 2006a, 2006b, 2009), 九州とトカラ列島をつなぐ島々からの採集例はなかった。筆者は、屋久島および



図1. 屋久島産のケモンヒメミゾコメツキダマシの♀.

奄美大島において採集された個体を検することができたので、ここに記録しておきたい。

2 exs., 鹿児島県熊毛郡屋久島町永田, 10–12. VII. 2009, 西野久雄採集; 3 exs., 屋久島町小瀬田林道, 14–17. VII. 2013, 西田久雄採集. 1 ex., 鹿児島県奄美市住用町丸畑, 7. VII. 1976, 森島直哉採集; 4 exs., 鹿児島県奄美市名瀬知名瀬, 31.VII. –12. VII. 2011, 鈴木互採集.

文末ながら、貴重な標本をご提供下さった、栃木県の森島直哉氏と東京都の西野久雄氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 久松定成, 1985. コメツキダマシ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑 (III): 42–51 (pls. 8–9). 保育社, 大阪.
 鈴木 互, 2006a. 伊豆諸島八丈島におけるケモンヒメミゾコメツキダマシの記録. 甲虫ニュース, (153): 28.
 鈴木 互, 2006b. 材採集により得られたトカラ列島中之島のコメツキダマシ. 甲虫ニュース, (154): 28.
 鈴木 互, 2009. FIT により採集された伊豆諸島三宅島のコメツキダマシ. 甲虫ニュース, (168): 17–18.

(鈴木 互 法政大学第二高等学校生物科)

【短報】韓国初記録のコツキダマシ3種

韓国に生息するコメツキダマシについては、これまでほとんど記録がなく、八木・沢田 (2000) によるアイヌツヤヒメコメツキダマシ *Xylopilus ainu* (Fleutiaux, 1923) と鈴木・高 (2012) によるホソナガコメツキダマシ *Isorhipis foveata* Hisamatsu, 1955 のわずか 2 種の確認がされているにすぎない。筆者は、韓国からこれまで記録のなかったコメツキダマシを 3 種検することができたので、ここに記録しておきたい。

1. ミナミヒメミゾコメツキダマシ *Dromaeolus marginatus* Hisamatsu, 1965 (Fig. 1)

1♀, Mt. Villa, near Mt. Seoraksan, Gangwon-do, Republic of Korea, 9–11. VI. 1978, Shusei Saito leg.

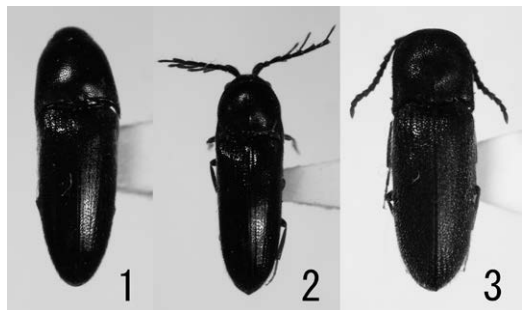
伊豆諸島八丈島と台湾の標本に基づいて命名記載された種であるが、その後、各地から記録され、現在では九州、伊豆諸島（三宅島）、小笠原諸島、屋久島、琉球の生息が確認されている。雌個体のため、雄交尾器の比較はできなかったが、三宅島産と台湾産の雌個体と比較した結果、形態が一致したので、本種と同定した。

2. クシヒゲミゾコメツキダマシ *Microrhagus ramosus* (Fleutiaux, 1923) (Fig. 2)

本種は、北海道、本州、四国、九州、伊豆諸島、佐渡島、台湾から記録のある種で、雄では触角第 3 節より櫛歯状になることや分枝の位置、そして、前胸背板の凹陷部が浅く、不明瞭であることなどが特徴となっている。

1♂, Mt. Hal-la [漢拏山], 1,000m, W. Slope, Jeju-do, Republic of Korea, 24–29. VI. 1981, Toru Shimomura leg.

3. アイヌコメツキダマシ *Farsus ainu* Fleutiaux, 1923 (Fig. 3)



Figs. 1–3. Eucnemid species newly recorded from Korea. 1, *Dromaeolus marginatus* Hisamatsu, 1965; 2, *Microrhagus ramosus* (Fleutiaux, 1923); 3, *Farsus ainu* Fleutiaux, 1923.